

パン・アキモト社長 秋元 義彦



者二人と短大卒一人で、うち二人は被災地出身です。岩手県宮古市から来た社員は、友達や親戚を津波で亡くしています。福島県浪江町からの社員は、家族が同県二本松市で仮設住宅住まいです。

至言 提言 とちぎの 現場から

今年、四人の新卒者が入社してきました。高卒数十人の応募の中、あえて被災地出身者を選抜

例の被災地支援活動で、宮城県南三陸町と岩手県陸前高田市へドーナツ揚げに出かけました。仮設住宅三方所で「揚げパンやミニドーナツ等」の無償提供です。新卒者は出席を義務にしました。

新卒者と被災地支援

優しい心持つ原石

したわけではないですが、面接時、「働く目的」をしっかりと持っていたことが印象的でした。何より「生きる力を強く感じさせる」二人でした。四月六〜七日、毎月恒

新卒者は当初戸惑っていましたが、先輩社員たちにはっぱを掛けられながら徐々に雰囲気になつていききました。当社の基本行動「大きな声でのあい

の立場と心を感じ取った経験を書きました。ドーナツをお届けに行つたある一軒で「揚げたてを召し上がってください。遠慮なくご家族の分までどうぞ」と声をかけ

たところ、独り住まいの人が「私は家族がおりません」と悲しそうに答えました。その新卒社員は直感で「家族を津波で亡くした人なんだ」と感じ取り、申し訳ない声掛けをしてしまったと反省の弁を記していました。

それを読んで、この新卒社員は痛みのわかる子なんだと知りました。早速、彼らのレポートを全社員が読むようにと掲示しました。

さつと笑顔の提供」も実践していききました。力を出し切った社員が乗る帰りのバスの中は、全員が爆睡状態でした。後日、新卒者のレポートを読んで感動し、涙しました。彼らは被災者たちと心の付き合いもしてきましたのです。ただ食料を提供するだけでなく被災者